

# 非常警報設備取扱説明書

複合装置 NEB904EX (普通、露出型)  
 NEB904FX (普通、埋込型)  
 NEB904EP (防雨、露出型)  
 NEB904FP (防雨、埋込型)

## はじめに

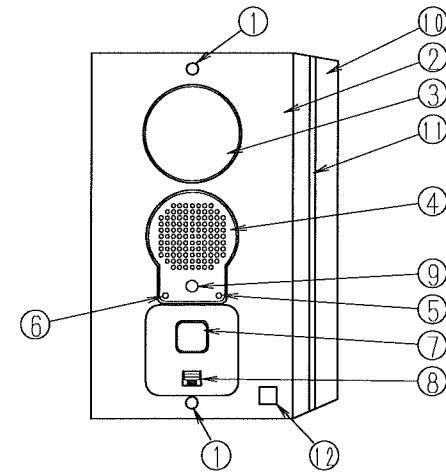
※この度は、当社の非常警報設備をご採用いただき、誠に有難うございます。  
 ※本品は密閉形ニッケル・カドミウム蓄電池を内蔵した電源部分と、表示灯、音響装置（スピーカ）ならびに起動装置が一つのケースにセットされています。  
 非常の場合、起動装置を押しますと、直ちに作動し、音響装置（スピーカ）が電子音を発します。  
 停電時は自動的に蓄電池に切り替わり、1時間監視状態を続けた後、10分間音響装置（スピーカ）を鳴動させることができます。  
 ※火災発生時に備え正しくお使いいただくために、この説明書をよくお読みください。  
 尚、この説明書は大切に保管してください。

## NDC 日本ドライケミカル株式会社

## 仕様

種別	複合装置	
	普通型	防雨型
型名	露出型 NEB904EX	埋込型 NEB904FX
型式番号	認許非第26~8号	認許非第26~9号
電源電圧	AC100V 50/60Hz	
回路電圧	DC6V	
消費電力	警戒時：2.5W 警報時：4W	
非常電源	DC6V 250mA 密閉形ニッケル・カドミウム蓄電池 充電方式：トリクル充電 充電電流：9mA	
表示灯	DC6V 10mA LED表示灯	
音響装置	DC6V 230mA 90dB以上	
起動装置	押し釦 接点容量 DC30V 1A	
移報接点	接点容量 DC30V 3A	
使用温度範囲	0℃～+40℃	
最大接続台数	20台	
適合ボックス	露出型	専用露出ボックス
	埋込型	4個用スイッチボックス (JIS C 8340) 228×174×54 カバー不要
質量	露出型	1.0 Kg
	埋込型	0.7 Kg
予備品及び付属品	1	ヒューズ 0.1A・・・2本 (本体ケースに付属)
	2	ヒューズ 1A・・・1本 (本体ケースに付属)
	3	本体取付用ビス 露出型・・・M4×15 4本 埋込型・・・M4×25 4本
埋込型 施工時のご注意	入線はスイッチボックス上側のノックアウトから行ってください。	

## 各部の名称と機能



①カバープレート固定ビス ②カバープレート ③表示灯  
 ④音響装置（スピーカ） ⑤交流電源灯 ⑥電池確認灯  
 ⑦起動スイッチ（ロック式） ⑧復旧レバー ⑨電池試験スイッチ  
 ⑩露出ボックス（埋込型は除く） ⑪防水パッキン（普通型は除く）  
 ⑫合格証票

- ③ 表示灯  
 表示灯は常時点灯します。起動スイッチの操作により点滅状態となります。
- ⑤ 交流電源灯  
 交流電源（AC100V）が投入されている場合、点灯します。停電時は、消灯します。
- ⑥ 電池確認灯  
 電池試験スイッチを押すと点灯します。点灯すれば、正常です。  
\*点灯しない時は、点検業者等に連絡してください
- ⑦ 起動スイッチ  
 樹脂の保護カバーを強く押せば押釦がONとなり、音響装置が鳴動します。  
(非常時に操作します。)
- ⑧ 復旧レバー  
 下向きに操作することで起動装置が復旧します。  
(サイレンの鳴動、表示灯の点滅を停止させます。)
- ⑨ 電池試験スイッチ  
 予備電源（電池）のチェックに用いるスイッチです。

## 使用上の主なご注意

非常警報設備を安全にご使用いただくために、以下の点にご注意ください。

**警告**

機器の故障時は速やかに契約先に連絡してください。故障を放置すると正常に機能いたしません。

修理技術者以外は本体内部に手を触れないでください。感電、故障の恐れがあります。

故障や誤作動を防ぐために次のような場所では使用しないでください。  
 ・直射日光のあたる所、暖房やポイラーなどからの熱風が直接あたる所。  
 ・水滴、蒸気、ほこり、腐食性ガスなどがかかる所。  
 (防雨対策を施されていない機器を雨水がかかる所では、使用しないでください。)  
 ・使用温度範囲をこえる所。

**注意**

機器の操作は、必ず手で行ってください。手以外のものでは確実な操作ができず、又、機器を破壊することがあります。

機器の周りに物を置かないでください。緊急時の操作に支障をきたします。

各機器の正しい取扱いを理解し、緊急時の使用に備えてください。緊急時の対応を容易に行えます。

本防災システムは法の定めるところに従って、必ず定期点検を行ってください。この定期点検を怠ると火災時に正常に機能しない恐れがあり、その責任を問われることがあります。

## 正常な監視状態の確認

- 警告**  
 機器が正常な状態にあるか、常日頃確認してください。正常な状態にない場合は、火災時に正しく動作しません。  
 日常は、次の状態を確認してください。  
 ●表示灯が点灯しています。  
 ●交流電源灯（緑）が点灯しています。
- 警告**  
 予備電源（電池）は必ず取付けておいてください。予備電源がないと停電時に機能しません。
- 警告**  
 予備電源の接続は、+-を絶対に間違わないようにしてください。予備電源を発熱・破裂させる原因になります。

## 非常時の操作

- 注意**  
 機器の操作は必ず手で行ってください。手以外のものでは、確実な操作ができず、又、機器を破壊することがあります。  
 火災を発見した時には、次の操作を行ってください。
- (1) 起動スイッチを押す。  
 ・音響装置（スピーカ）が鳴動します。  
 (他の複合装置と連動している場合、共に鳴動します)  
 ・表示灯が点滅します。  
 (他の複合装置と連動している場合、起動スイッチが押された機器のみ)
- (2) 現場の状況を確認する。  
 ・安全を確かめた上で、状況を確認すると共に、消防署への通報、初期消火、避難誘導を速やかに行ってください。
- (3) 正常な状態に戻す。  
 ・正常な状態に戻すには、復旧レバーを下に下げてください。

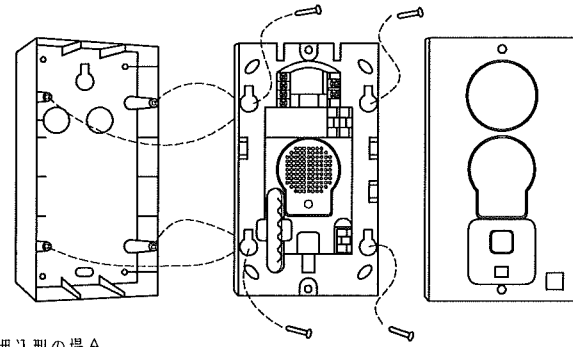
## 取付方法

### 取付時の注意

1. 複合装置は起動スイッチの中心が床面より0.8～1.4mの位置になるように取付けてください。
2. 防雨型でない機種を雨水のかかる場所に設置しないでください。
3. カバープレートを閉める前に必ず、表示灯及び予備電源（電池）の接続が正しく行われていることを確認してください。
4. 表示灯及び予備電源（電池）コネクタの抜き差しは、注意して行ってください。
5. 機器の清掃にシンナーやベンジン等の有機溶剤を使用しないでください。樹脂表面を傷つけます。

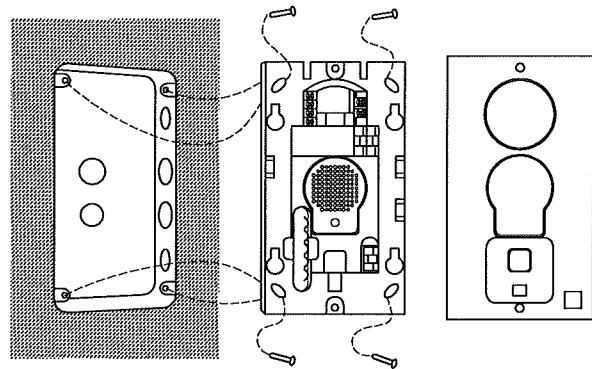
- 1) カバープレートの取外し  
上下2本のネジを緩めカバープレートを本体から取外します。  
(コネクタの接続方法は別項参照)

- 2) 壁面への取付  
\*露出型の場合  
① 露出ボックスを壁面に固定する。  
② 露出ボックスに本体を固定する。  
(M4×15ビス：4本使用)  
③ 表示灯及び予備電源（電池）と本体を接続する。  
④ カバープレートを取付ける。

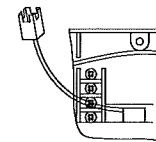


\*埋込型の場合

- ① 壁に埋込まれた埋込ボックスに本体を固定する。  
(M4×25ビス：4本使用)
- ② 表示灯及び予備電源（電池）と本体を接続する。
- ③ カバープレートを取付ける。

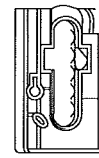


### 3) 表示灯の接続方法



表示灯の接続は表示灯のコネクタを装置本体のコネクタの向きに合わせて差し込んでください。外す場合は、装置本体のコネクタの背面の突起を指して押しながら引き抜いてください。

### 4) 予備電源（電池）の着脱



装置本体のコネクタに予備電源（電池）コネクタを差込んで電池を本体に収納してください。外す場合は、電池を本体から取り出し、本体のコネクタの背面の突起を指して押しながら引き抜いてください。

警告



予備電源の接続は、+-を絶対に間違わないようにしてください。予備電源を発熱・破裂させる原因になります。

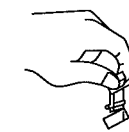
## 保守・点検

### 1) ヒューズの交換方法

注意



ヒューズは、必ず決められた容量のものを使用してください。それ以外のものを使用した場合は、故障・発火の原因となります。



\*ヒューズの取外し・・・ヒューズカバーの取手を持って本体より引き抜いてください。  
\*ヒューズの取付け・・・ヒューズを取外した後、付属のヒューズを取付けて本体のヒューズ端子に押し込んでください。

### 2) 定期点検のきまり

非常警報設備は、いざという時に正しく動作させるために、定期的な保守点検が必要です。消防法では、防火対象物の関係者（建物の所有者、管理者又は占有者）に対して定期的な保守点検の実施及びその結果を報告するよう定められています。

警告



修理技術者以外の方は分解したり、修理・改造はしないでください。故障の原因になります。

注意



定期交換の必要な部品は、指定期間で交換してください。正常に機能しなくなります。

点検には、専門的な知識と技術を必要とします。施工店などと保守点検契約を結び、有資格者による保守点検を実施してください。定期点検と結果報告の概要を次に記します。

\*定期点検

定期点検の種類	定期点検の期間
外観点検および機能点検	6ヶ月
総合点検	1年

\*結果報告・・・点検の結果は、維持台帳に記録して保管し、次表の期間ごとに所轄の消防署に報告しなければなりません。

防火対象物の種類	報告期間
特定防火対象物	1年に1回
特定防火対象物以外のもの	3年に1回

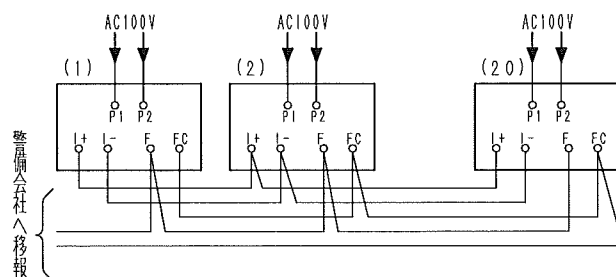
## 配線方法

### 配線時の注意

1. 接続台数は、20台です。
2. 電源はAC100V専用です。接続前に入力電圧を確認してください。AC100V以外の電源は、絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
3. 電源接続は感電防止のため、ブレーカーを遮断してから作業を行ってください。
4. 外部配線端子（I+・I-、F・FC）にAC100V電源を絶対に接続しないでください。内部回路を破壊してしまいます。
5. 連動端子（I+・I-）の極性は正しく接続してください。

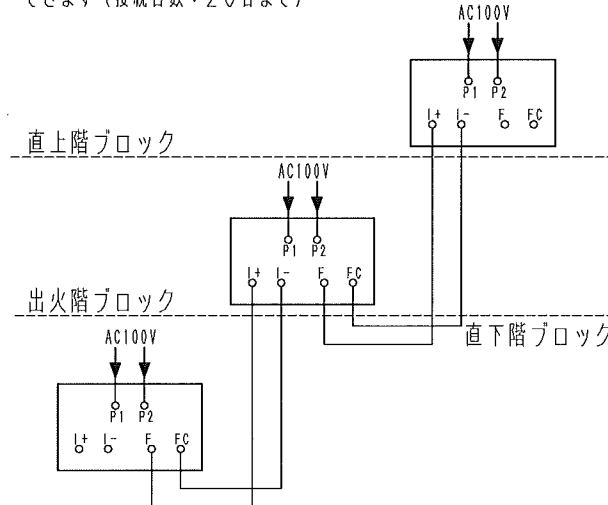
### 1) 接続方法・・・その1（連動及び移報接続）

- \*連動機能：複数台の装置を連動させて音響装置を一斉鳴動させることができます。（I+・I-端子の極性を合わせて接続する）
- \*移報機能：装置を起動させた場合、警備会社等に起動信号を送ることができます。（F、FC端子を接続する）



### 2) 接続方法・・・その2（出火階、直上階のみブロック鳴動）

\*装置を起動させた階及びそのすぐ上の階の音響装置を鳴動させることができます（接続台数：20台まで）



### 3) 連動端子間接続用の電線

接続台数	10台以下	10～20台
線径 (mm)	φ0.9	φ1.2
配線長 (m)	350	700

## 回路図

